

第3期 加古川市人口ビジョンにおける 将来展望人口の改定(案)

令和8年9月
企画部 企画広報課

1. 目次

1.加古川市第2期人口ビジョン

2.人口動態の現状

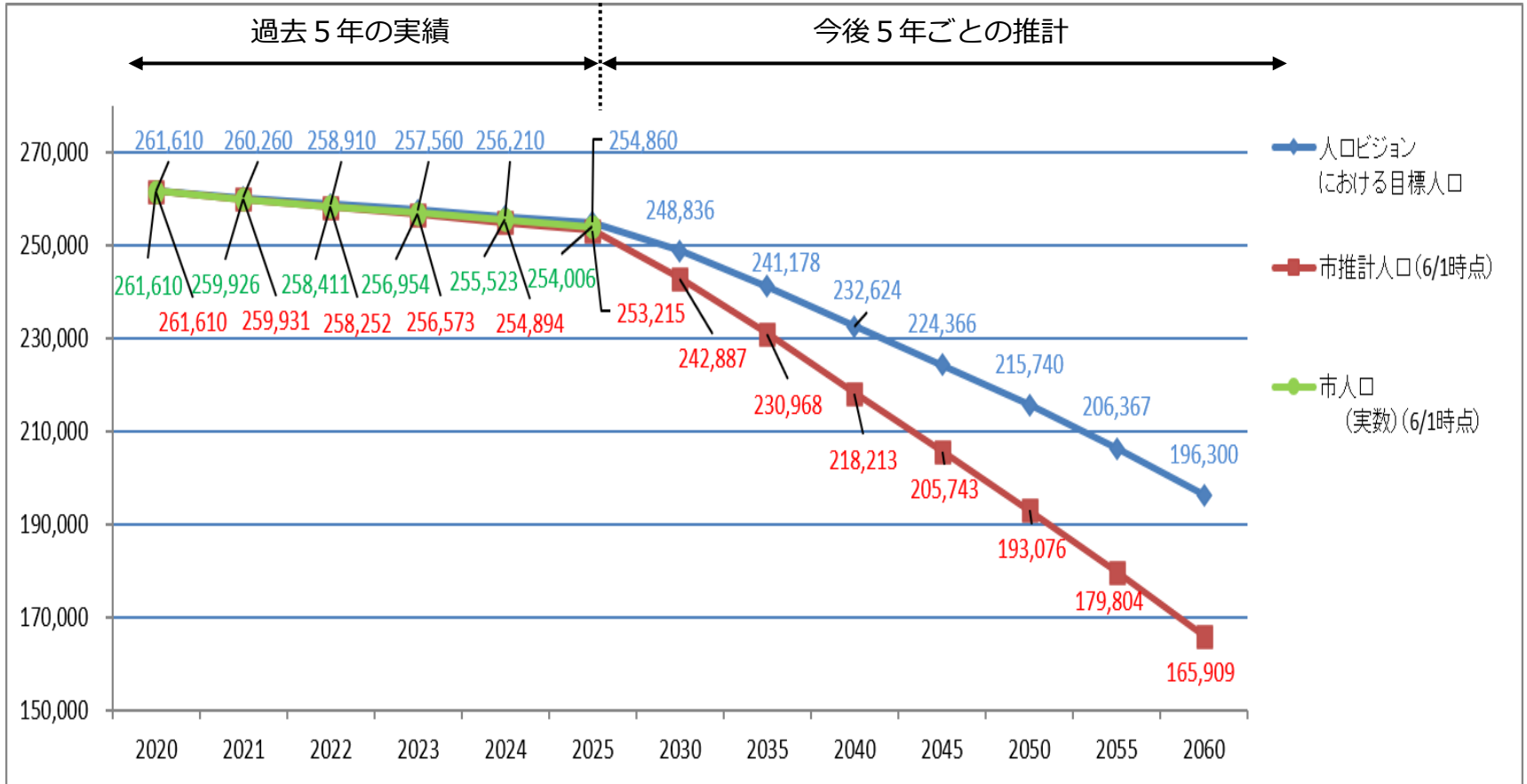
- (1) 自然動態の推移
- (2) 合計特殊出生率の推移
- (3) 社会動態の推移
- (4) 転入・転出超過数の推移

3.将来展望人口の改定

- (1) シミュレーション（条件設定）
- (2) 将来展望人口のシミュレーション

1. 第2期加古川市人口ビジョン

- 第2期加古川市人口ビジョンでは令和42（2060）年に総人口**20万人程度**の確保を目標
- 令和7（2025）年市人口（実数）は目標人口と市推計人口の**中間**に位置



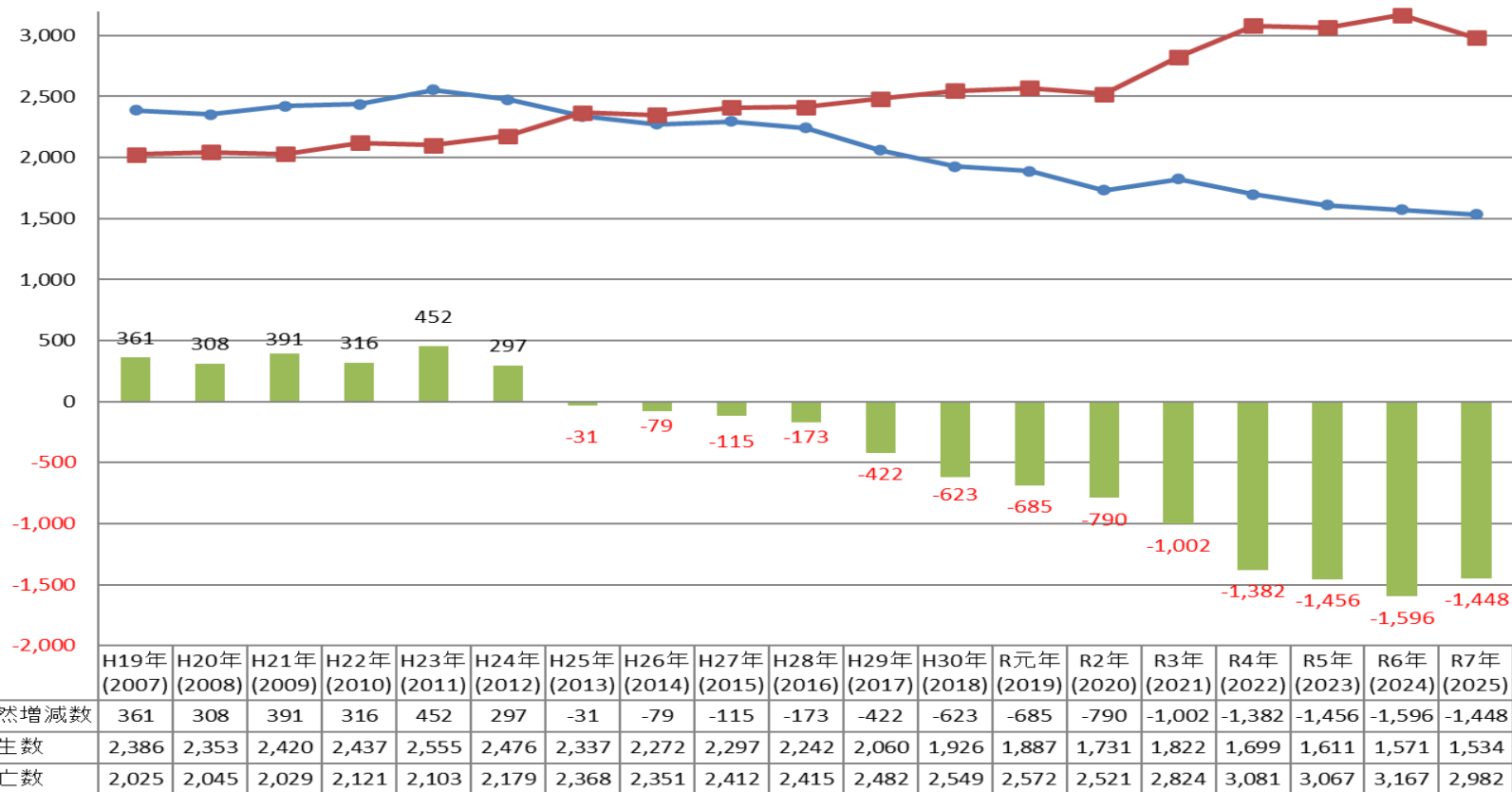
(出典) 加古川市「第2期加古川市人口ビジョン」を基に作成

2. 人口動態の現状

(1) 自然動態の推移

- 平成25（2013）年以降出生数と死亡数が逆転し、**自然減が拡大傾向**

自然動態の状況

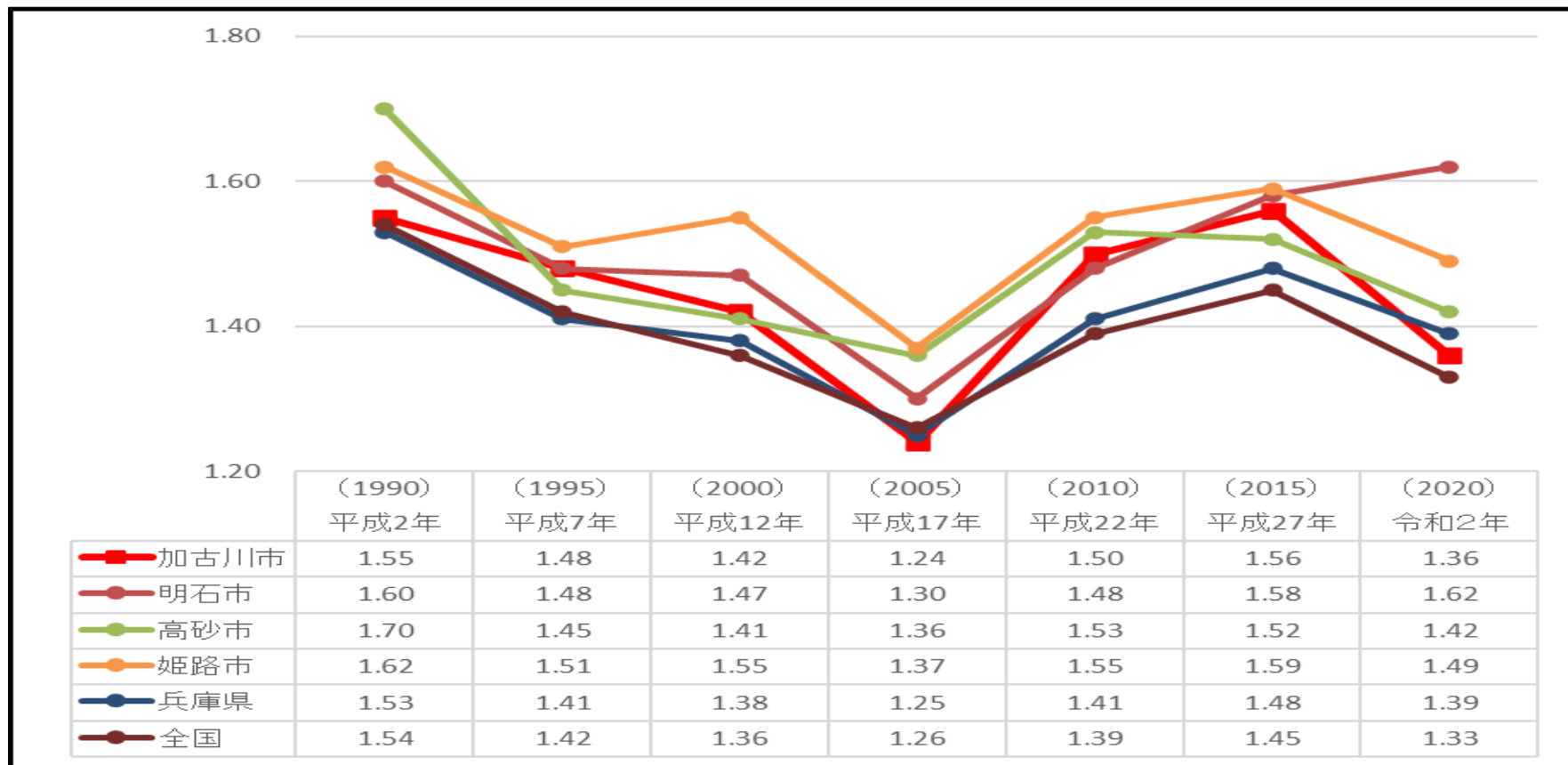


(出典) 兵庫県「人口の動き」
※R7は加古川市推計人口を基に作成

2. 人口動態の現状

(2) 合計特殊出生率の推移

➤ 平成27（2015）年から令和2（2020）年は明石市を除き**低下傾向**

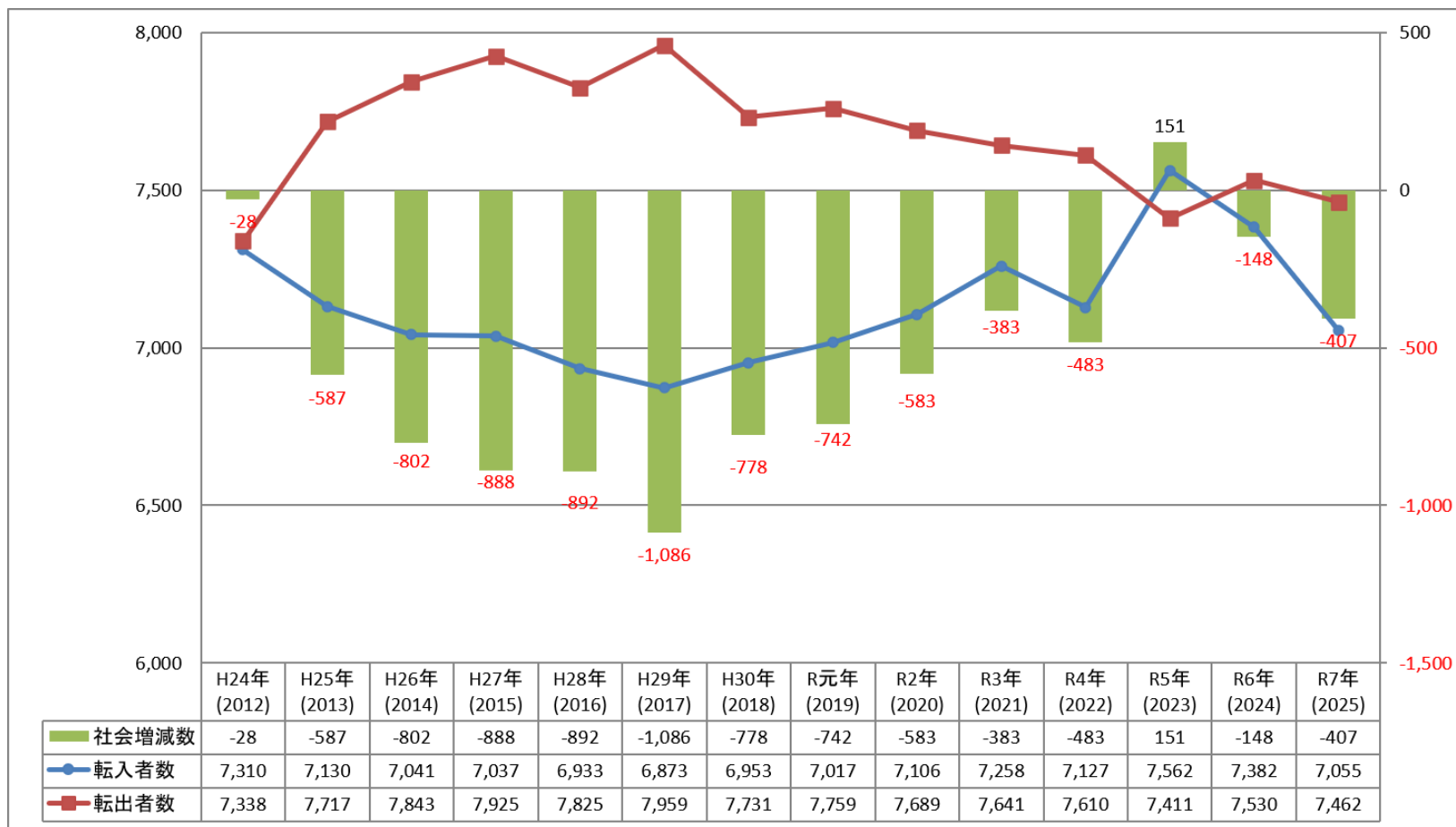


(出典) 兵庫県保健統計年報（国勢調査結果）

2. 人口動態の現状

(3) 社会動態の推移

- 平成29（2017）年に転出超過数がピーク
- 近年は**改善傾向**にあり、令和5（2023）年には11年ぶりの**転入超過**

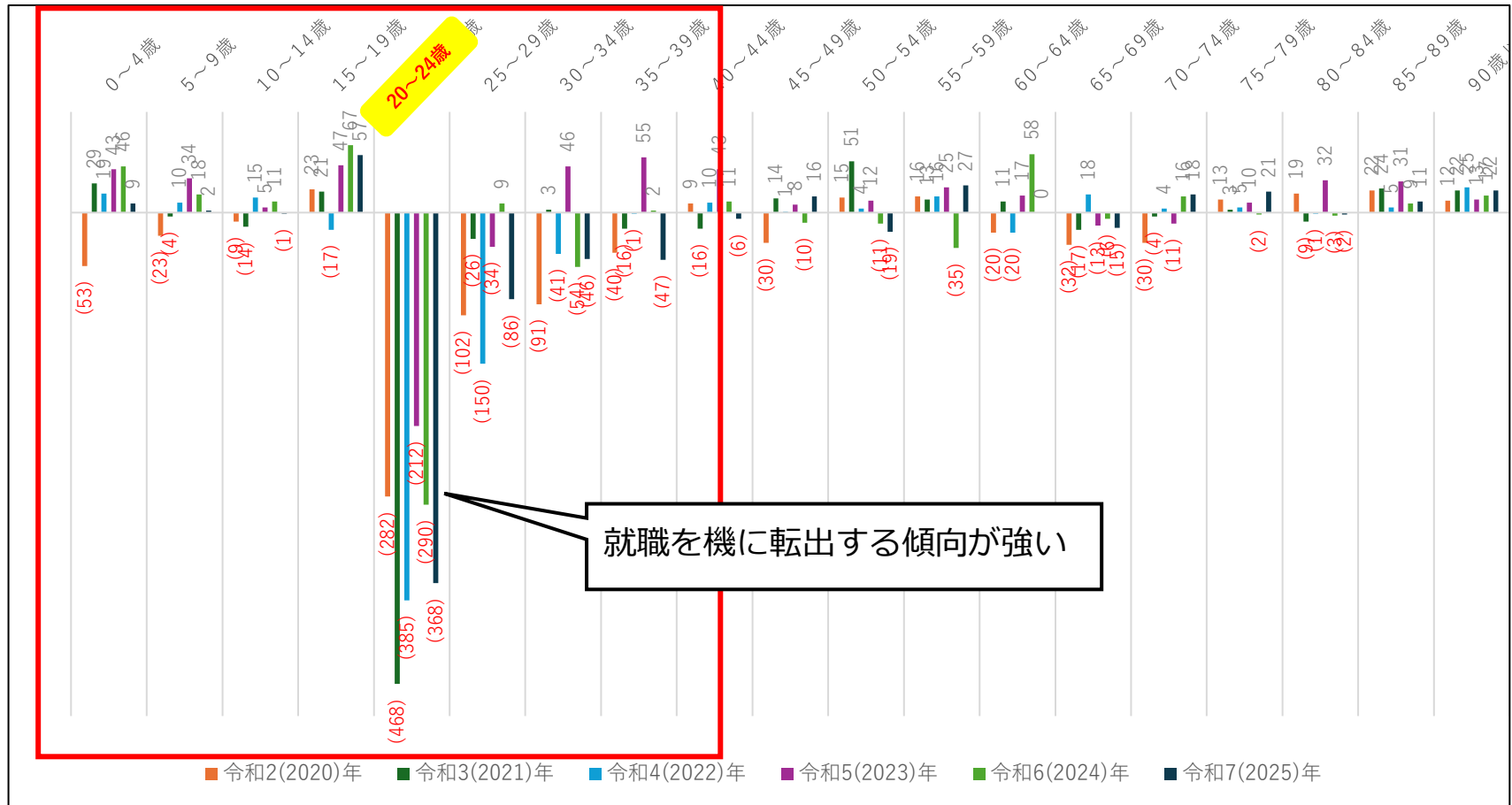


（出典）総務省「住民基本台帳人口移動報告」を基に作成

2. 人口動態の現状

(4) 転入・転出超過数の推移

- 若い世代で転出超過が顕著
- 特に**20～24歳の転出超過が突出**



(出典) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」を基に作成

3. 将来展望人口の改定(案)

(1) シミュレーション(条件設定)

	合計特殊出生率	純移動率(社会動態)
社人研準拠	直近の数年間の実績を基に、急上昇もしないが、急低下もしない「中位」シナリオを設定。	転入・転出の規模や方向性(都市部への集中など)は、直近の数年間の平均的な動きが継続すると仮定。
第3期人口ビジョンの目標人口(案)	令和12(2030)年まで1.34(※1)を維持し、令和17(2035)年に「国民希望出生率1.8」(※2)に達し、以降横ばいとなるように仮定。	0～14歳及び25～34歳の純移動率が、2030年までに改善すると仮定。若年層については、進学・就職等に伴う一定程度の転出を見込みつつ、25～34歳では、就職・結婚・子育て等のライフステージを捉えた転入やUターンの増加を見込む。また、35～39歳についても純移動率の改善を見込み、40歳以降については原則として2025年の純移動率を維持すると仮定。2030年以降は、2030年時点の純移動率が継続するものとする。

※1 過去5年間の加古川市における合計特殊出生率の平均値

※2 国の「少子化社会対策大綱」に掲げられた数値目標で、若い世代における結婚、妊娠・出産、子育ての希望等がかなうとした場合に想定される出生率

3. 将来展望人口の改定(案)

(2) 将来展望人口のシミュレーション

	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
社人研準拠	253,958	245,284	235,191	224,194	212,790	201,316	189,341	176,560
第3期人口ビジョンの目標人口(案)	255,850	248,181	241,555	233,636	225,283	216,742	207,521	197,219

第3期人口ビジョンでは、引き続き**総人口20万人程度**の確保を目標とする。

